

阿部野橋ターミナルビル
旧館建替事業に係る
事後調査報告書
(平成24年4月～平成25年3月)

平成25年5月

近畿日本鉄道株式会社

目 次

1. 事業者の氏名及び住所.....	1
2. 対象事業の名称	1
3. 対象事業の実施場所.....	1
4. 対象事業の概要	1
5. 対象事業の実施状況.....	2
6. 事後調査項目及び手法.....	3
7. 事後調査結果及び評価.....	4
7.1 工事関係車両の走行に伴う騒音・振動・交通量.....	4
7.2 廃棄物・残土	10
7.3 建設機械・工事関連車両の稼働の状況.....	13
8. 環境保全措置の履行状況.....	18
9. 市長意見及びその履行状況.....	22

1. 事業者の氏名及び住所

名称：近畿日本鉄道株式会社

代表者：取締役社長 小林 哲也

所在地：〒543-8585 大阪市天王寺区上本町六丁目1番55号

2. 対象事業の名称

阿部野橋ターミナルビル旧館建替事業

3. 対象事業の実施場所

大阪市阿倍野区阿倍野筋一丁目1番43号

4. 対象事業の概要

本事業は、都市再生事業により、ターミナルビル旧館部分をタワー館へと建て替えるとともに、百貨店機能の増強、また従前の阿倍野地区にはないオフィス機能・宿泊機能の導入による更なる都市機能集積により、阿倍野地区の都市拠点としての魅力向上を目指している。

施設の概要は表4.1に示すとおりである。

表 4.1 計画施設の概要（評価書）

事業計画地の概要	位置	大阪市阿倍野区阿倍野筋一丁目1番43号
	敷地面積	約 6,500m ²
	区域の指定	都市計画区域内（市街化区域）
	地域・地区	商業地域、都市再生特別地区
	防火地域	防火地域
	基準建ぺい率	80%（耐火建築物の場合 100%）
	容積率の最高限度	1,600% （都市再生特別地区の都市計画により最高限度緩和。）
施設の概要	建築面積	約 6,300m ²
	延べ面積	約 212,000m ²
	階数	地上 62 階、塔屋 1 階、地下 6 階
	主な用途	百貨店、オフィス、ホテル、美術館、展望台
	建物の高さ	約 300m
	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造
	駐車台数（建替に伴う増加分）	約 400 台 （うち約 200 台は、計画地外の既存駐車場を有効活用。）

注 1) 荷捌き車両・廃棄物収集車両は既存の近鉄百貨店新館地下 4 階の納品駐車場を利用する。

5. 対象事業の実施状況

工事工程を表 5.1 に示す。工事は平成 21 年春から 5 年程度を予定している。

本事業は、阿部野橋ターミナルビル旧館の建替事業であるため、まず平成 21 年春より旧館の解体工事に着手し、同年中に完了した。平成 22 年からは山留め工事・杭工事に着手し、平成 23 年 2 月に完了した。また、平成 23 年 2 月から掘削工事、地下躯体工事、地上躯体工事の工事に着手し、平成 24 年中に完了した。仕上・設備工事に平成 23 年 7 月より着手した。

表 5.1 工事工程（評価書）

年次	平成 21 年度				平成 22 年度				平成 23 年度				平成 24 年度				平成 25 年度					
	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1			
解体工事	■■■■																					
基礎工事			山留め工事、杭工事																			
躯体工事					掘削工事、地下躯体工事				■■■■													
									地上躯体工事				■■■■									
仕上工事													仕上・設備工事、外構工事									

平成 23 年から着手した掘削工事、地下躯体工事、地上躯体工事、仕上・設備工事の状況は、表 5.2 に示すとおりである。

掘削工事、地下躯体工事、地上躯体工事については平成 23 年 2 月から着手し、平成 24 年中に完了した。仕上・設備工事は平成 23 年 7 月から開始し、平成 25 年 3 月現在も工事が継続している。

評価書の工程と比較して、多少の変更があったものの、工事期間等の全体スケジュールは、当初の計画どおり順調に進んでいる。

表 5.2 掘削工事、地下躯体工事、地上躯体工事、仕上・設備工事の工事工程

年月		平成24年												平成25年					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
工事区分		(着工後37月)	(着工後38月)	(着工後39月)	(着工後40月)	(着工後41月)	(着工後42月)	(着工後43月)	(着工後44月)	(着工後45月)	(着工後46月)	(着工後47月)	(着工後48月)						
躯体工事	掘削工事	評価書の工程	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
	掘削工事	実績工程	■■■■																
	地下工事	評価書の工程	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	地下工事	実績工程	■■■■																
	地上工事	評価書の工程	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	地上工事	実績工程	■■■■																
仕上・設備工事	評価書の工程	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	実績工程	■■■■																	

■■■■■ 評価書の工程
 ■■■■■ 実績工程

6. 事後調査項目及び手法

平成 24 年 4 月（着工後 37 ヶ月）～平成 25 年 3 月（着工後 48 ヶ月）の工事を対象として実施した調査を本報告書で報告する。（表 6.1）

表 6.1 対象期間中に実施した事後調査の調査内容

環境項目等	調査項目	調査地点・範囲	調査頻度・時期	調査手法	評価の方針
道路交通騒音・振動	騒音レベル	5地点	1回 (場内外運搬車両の日発生交通量最大時 (39ヶ月目))	24時間連続測定 JIS Z 8731 に準拠 JIS Z 8735 に準拠	環境基準の達成と維持に支障がないこと
	振動レベル				
交通量	大型車・小型車別時間交通量			24時間連続測定 (調査員による計数)	予測条件との整合状況
廃棄物	月別・種類別排出量及びリサイクル量	事業計画地内	工事期間中	工事作業日報の整理等による。	環境保全対策(廃棄物)の状況 廃棄物発生量の抑制及び処理状況
建設機械等の稼働状況	建設機械の機種、型式、低騒音型・排出ガス対策型の有無及び各々の稼働時間等の稼働状況、工事関連車両の出入台数	事業計画地内	工事期間中	工事作業日報の整理等による。	環境保全の観点から、環境負荷の低減に配慮された工事工程となっていること

注) アスベストについては対象期間中に発生しなかったため、報告の対象外とした。

なお、事後調査計画書において示した事後調査（建設工事中）の調査項目、調査地点・範囲、調査頻度・時期及び調査手法を参考までに表 6.2 に示す。

表 6.2 事後調査計画書で示した事後調査の調査内容（建設工事中）

環境項目等	調査項目	調査地点・範囲	調査頻度・時期	調査手法	評価の方針
建設作業騒音・振動	騒音レベル	建設作業騒音・振動最大時 ・解体工事最大時(昼間) 2～4ヶ月目、1地点 ・新築工事最大時(昼間) 13～15ヶ月目、1地点 ・新築工事最大時(夜間) 10～11ヶ月目、1地点 27～40ヶ月目、1地点	1回 (場内外運搬車両の日発生交通量最大時 (41ヶ月目))	工事時間帯(昼間: 8～18時、夜間: 20時～翌6時)を含む連続測定 JIS Z 8731 に準拠	昼間:規制基準以下であること(L ₅) 夜間:現況値との比較(L _{Aeq})
	振動レベル				
道路交通騒音・振動	騒音レベル	5地点	1回 (場内外運搬車両の日発生交通量最大時 (41ヶ月目))	24時間連続測定 JIS Z 8731 に準拠 JIS Z 8735 に準拠	環境基準の達成と維持に支障がないこと
	振動レベル				
交通量	大型車・小型車別時間交通量			24時間連続測定 (調査員による計数)	予測条件との整合状況
廃棄物	月別・種類別排出量及びリサイクル量	事業計画地内	工事期間中	工事作業日報の整理等による。	環境保全対策(廃棄物)の状況 廃棄物発生量の抑制及び処理状況
建設機械等の稼働状況	建設機械の機種、型式、低騒音型・排出ガス対策型の有無及び各々の稼働時間等の稼働状況、工事関連車両の出入台数	事業計画地内	工事期間中	工事作業日報の整理等による。	環境保全の観点から、環境負荷の低減に配慮された工事工程となっていること
アスベスト	除去・処理状況	事業計画地内	工事期間中	工事作業日報の整理等による。	関係法令等に基づき適切に処置していること

7. 事後調査結果及び評価

7.1 工事関係車両の走行に伴う騒音・振動・交通量

(1) 調査概要

1) 調査日時

調査は、工事関係車両（生コン車を含む）の台数が最も多くなると考えられる日を対象として実施した。

調査日時：平成 24 年 6 月 29 日（金）5 時 00 分～30 日（土）5 時 00 分

2) 調査地点

調査地点は、事後調査計画書の 5 地点とし、図 7.1.2 に示す。

なお、地点 4 については、事後調査計画書において調査を予定していた位置に地下駐輪場出入口が新設されたこと、また当該位置の対面でマンションの新築工事が行われており、騒音等の影響を受けることが考えられたことから、当該位置から北に約 50m 移動して調査を実施した。

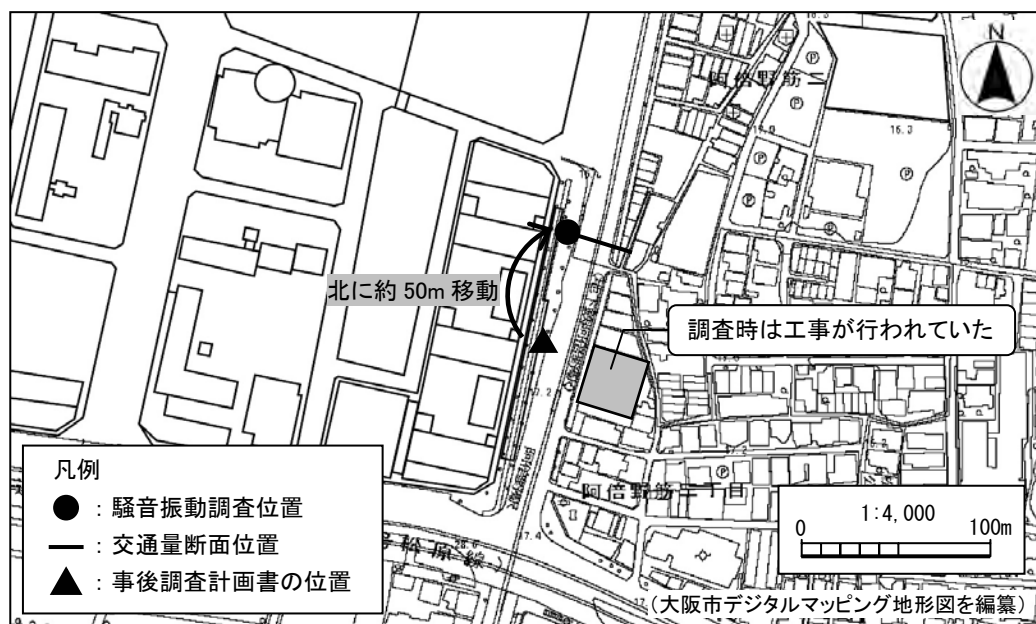


図 7.1.1 地点 4 詳細位置

3) 調査項目

調査項目一覧を表 7.1.1 に示す。

表 7.1.1 調査項目一覧

調査項目	調査地点・範囲	調査頻度・時期	調査手法	評価の方針
騒音レベル	5地点	1回 (場内外運搬車両の日発生交通量最大時 (39ヶ月目))	24 時間連続測定 JIS Z 8731 に準拠 JIS Z 8735 に準拠	環境基準の達成と維持に支障がないこと
振動レベル			24 時間連続測定 (調査員による計数)	
大型車・小型車別 時間交通量			予測条件との整合状況	

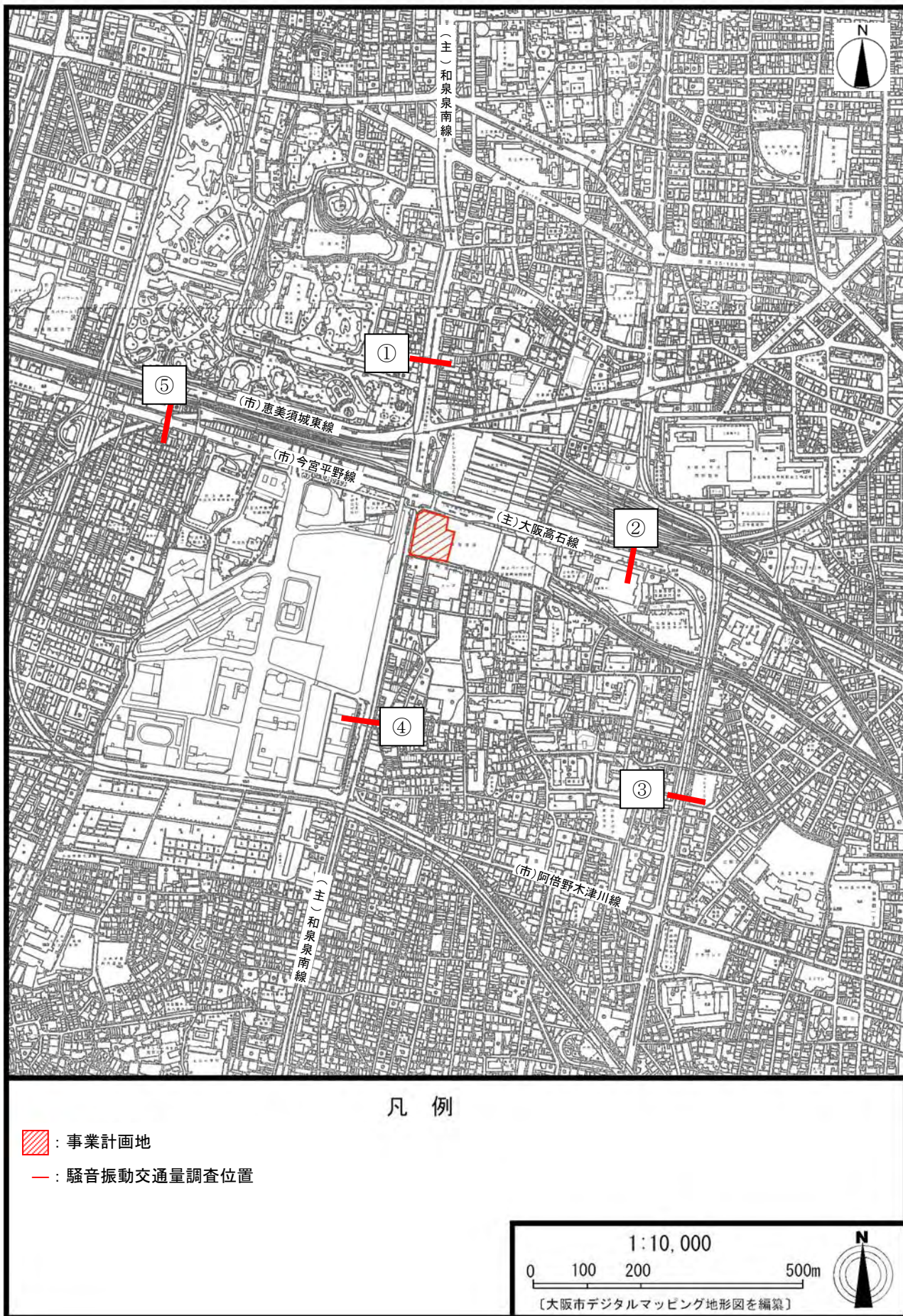


図 7.1.2 騒音・振動・交通量調査地点全体位置(平成 24 年 6 月 29 日~30 日)

(2) 調査結果

1) 騒音

騒音レベルの調査結果を表 7.1.2 に示す。

これによると、調査結果は地点 2、地点 5 を除き環境基準値以下であった。環境基準値を上回った地点 2 及び地点 5 の夜間についても、評価書の現況値がすでに環境基準値を上回っており、評価書の予測値を下回る状況であった。

表 7.1.2 道路交通騒音調査結果

調査地点	時間区分	調査結果 L_{Aeq} (dB)	環境基準 (dB)	評価書の L_{Aeq} (dB)	
				現況値	予測値
1	昼間	63	70	65	65
	夜間	59	65	62	62
2	昼間	67	70	68	69
	夜間	66	65	67	67
3	昼間	67	70	69	70
	夜間	62	65	64	65
4	昼間	65	70	65	65
	夜間	62	65	62	62
5	昼間	68	70	72	72
	夜間	67	65	72	72

2) 振動

振動レベルの調査結果を表 7.1.3 に示す。

これによると、全ての地点で調査結果は要請限度値以下であった。また、評価書の予測値との比較では、地点 1、2、3、5 は予測値以下であった。しかし、前述の理由により調査位置を変更した地点 4 において予測値を上回る結果となった。

表 7.1.3 振動調査結果

調査地点	時間区分	調査結果 L ₁₀ (dB)	要請限度 (dB)	評価書の L ₁₀ (dB)	
				現況値	予測値
1	昼間	38	70	39	39
	夜間	33	65	36	36
2	昼間	45	70	46	46
	夜間	42	65	46	46
3	昼間	43	70	47	47
	夜間	38	65	41	41
4	昼間	43	70	31	31
	夜間	38	65	30	30
5	昼間	42	70	55	55
	夜間	36	65	45	45

※なお、調査日当日の本事業の小型車両がすべて地点 4 の前面道路（あべの筋）を通行したと仮定しても全通行台数の 1%未満であり振動寄与レベルはほとんど無い。

3) 交通量

各調査地点における交通量の調査結果を表 7.1.4 に示す。

これによると、調査結果（平均時間交通量計）は概ね評価書の時間あたり予測交通量と同等もしくはそれ以下であり、大型車両の調査結果はすべての地点で評価書の時間あたり予測交通量を下回った。

なお、調査当日の工事関係車両の台数は表 7.1.5 に示すとおりであり、入退場は合計で 432 台（通勤車両 142 台を除く）であった。

表 7.1.4 交通量調査結果

調査地点	時間区分	調査結果						評価書の時間あたり予測交通量 (台/時)		
		合計交通量 (台)			平均時間交通量 (台/時)			大型	小型	計
		大型	小型	計	大型	小型	計			
1	昼間	1,624	28,227	29,851	102	1,764	1,866	150	2,074	2,224
	夜間	247	7,161	7,408	31	895	926	46	907	953
2	昼間	4,559	25,321	29,880	285	1,583	1,868	306	1,741	2,047
	夜間	1,004	5,061	6,065	126	633	759	178	587	765
3	昼間	2,070	37,067	39,137	129	2,317	2,446	177	2,390	2,567
	夜間	267	7,374	7,641	33	922	955	64	863	927
4	昼間	1,205	21,307	22,512	75	1,332	1,407	91	1,494	1,585
	夜間	214	5,665	5,879	27	708	735	46	705	751
5	昼間	3,778	18,438	22,216	236	1,152	1,388	282	1,382	1,664
	夜間	910	3,880	4,790	114	485	599	155	481	636

表 7.1.5 (参考) 調査当日の工事関係車両台数

時間区分	大型車 (台)		小型車 (台)	小計 (台)	通勤車両 (台)	計 (台)
	生コン車	その他				
昼間	246	14	103	363	132	495
夜間	0	9	60	69	10	79
計	246	23	163	432	142	574

注) 昼間は 6 : 00 ~ 22 : 00、夜間は 22 : 00 ~ 6 : 00 の合計値である。

(3) 評価

1) 騒音

工事関係車両の走行に伴う騒音の調査結果は、地点 1、3、4 において環境基準値及び評価書の予測値以下となっている。地点 2、5 の騒音は夜間の環境基準値を上回っているものの、評価書の現地調査結果で既に環境基準値を上回っていた地点である。また、本調査結果は全ての地点において評価書の現地調査結果以下となっており、工事関係車両による押し上げはなく、表 7.1.4 に示す全走行車両に対する工事関係車両の台数(表 7.1.5)も少ないため、本事業が及ぼす影響は軽微であると考ええる。

2) 振動

工事関係車両の走行に伴う振動の調査結果は、全ての地点で要請限度値以下となっている。また地点 1、2、3、5 においては、評価書の予測値以下となっている。地点 4 においては評価書の予測値は上回る結果となったが、地点 4 の前面道路(あべの筋)は関係機関との協議及び交通規制により本工事に係る大型車両は通行していないことから、本事業が及ぼす影響は軽微であると考ええる。なお、地点 4 の調査結果が評価書の予測と比べて上回った理由は、前面道路(あべの筋)の整備や阿倍野自転車駐車場(地下式)設置等により周辺状況が変化していることが原因と考えられる。

3) 交通量

騒音・振動調査地点の前面道路における交通量調査結果は、概ね評価書の予測交通量と同等もしくはそれ以下であり、特に大型車両の調査結果はすべての地点で評価書の予測交通量を下回った。なお、調査当日の工事関係車両の台数は 432 台(通勤車両 142 台を除く)であり、各調査地点の合計交通量と比較して少ないため、本事業が及ぼす影響は軽微であると考ええる。

また、工事関係車両の走行に伴う騒音・振動の低減を目的として、以下に示すような事業計画地周辺地域に及ぼす影響を可能な限り低減するような措置を講じている。

- ・ 工事工程を十分検討し、工事関係車両の集中回避に努める。
- ・ 工事関係者には不必要なクラクション、アイドリング、空ぶかし、急加速等の高負荷運転を行わないよう指導を徹底する。
- ・ 工事関係者の公共交通機関の利用等による通勤車両低減の呼びかけを行う。

以上のことから、評価書で設定した環境保全目標を満足するものと評価する。